

OpenAlex Member(+)のご紹介

－Open Science への投資－

iJapan 株式会社
営業部 笠間 和喜

現在、日本では 2024 年 2 月の内閣府による「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」に基づき、機関リポジトリを活用した Green OA（グリーン・オープンアクセス）が着実に進展しています。

この流れを受け、国立情報学研究所（NII）の協力により、世界最大級の学術データベースである OpenAlex は、科研費の約 87 万件以上に加え、日本の学術リポジトリ、IRDB から約 370 万件のデータを取り込みました。これにより、日本の研究成果がオープンな環境で世界中から研究者からも API を利用したプログラムからも利用できる基盤が整いつつあります。

一方で、OpenAlex が主要なデータソースとしている Crossref のデータには課題も残されています。具体的には所属機関（Affiliation）や所属機関の永続識別子である Research Organization Registry（ROR）のデータに 10%～20%程度の欠落が見られる点です。これらは他のデータベースにも影響があり、その修正の費用は、実質的に図書館の購読費に含まれております。

この課題を解決するため、フランスの国営機関リポジトリである HAL では自機関の論文を正確に識別・整理する「Works-Magnet」プロジェクトやバルセロナ宣言のワーキンググループが立ち上がっており、Affiliation や ROR 問題を解決しようとしています。そして現在、その商用版として OpenAlex Member サービスの提供が開始されています。

OpenAlex Member が提供する主な機能

- Affiliation Editor：所属機関情報の修正・編集によるデータの精度向上
- OpenAlex の機関 API モニタ：機関内ユーザによる OpenAlex API を活用した書誌情報ダウンロードのモニタリング
- Unsub.org：購読データ（利用統計・パッケージ価格・OA 収録・コンテンツ停止時のアクセス権・図書館相互貸借等）に基づき、学術雑誌のパッケージ契約判断を支援する意思決定ツール

OpenAlex における書誌情報の品質向上は、単なるデータ整備の枠を超え、大学ランキングや学術流通のあり方を変える可能性を秘めています。現在、OpenAlex では助成機関による資金提供の成果とその波及効果を正確に可視化するプロジェクトを推進しております。これにより、既存の商用引用データベースを補完あるいは代替し得る強力なインフラとなることが期待されております。

図書館員の皆様による OpenAlex をはじめとするオープンデータベースの周知やセミナーといった地道な取り組みは、単なる普及活動に留まりません。それは高額な商用引用データベースからオープン版へのスイッチングコストを抑制し、スムーズな移行を実現するための極めて重要なプロセスです。オープンサイエンスへの投資を最大限に活用し、整備された学術情報を次世代へと継承していくために、共に歩みを進めていきましょう。